

寺子屋方丈舎フリースクールの活動報告

●12,1月分●

2020年1月29日（水）実施

作成：大関勇気

【今月のテーマ】

こどもの主体的参加

（目的）

これまで、子どもの参画を進めてゆく際に、どうしてもスタッフの側が準備をしすぎたり、問いを用意した方が答えやすい？という思い込みで活動を行ってきた。スタッフが問いを用意すると子どもはスタッフの意図を探ろうとする。これでは、学校で行われる教育となんら変わりがない。ただ、子どもに大人の考えを探らせているだけである。問いから子どもが作ったらどうなるだろう。こどもが、大人が問いを立てる以上に積極的に参加してくる。ただ楽しいから。このワクワクした気持ちで活動ができることが子どもにとってこれまでにない経験になっている。問いを立てる→考える→行動する→ふりかえる→問いを立てる。このサイクルで活動に対して主体的認知が高まっている。

【12,1月の動き】

- 12月末に引越し作業、全員参加
- 十日市に出店し販売体験のプログラムを実施し地域との交流を図る。今回は事業参加のみ。（6名）
- 体育、フットサル、野球のプログラムを継続し、体力づくりと相互のコミュニケーションに取り組む。
- 学習の時間では、各テーマ（数学、理科、社会など）に沿って、こども同士お互いに問題を出し合ったりと学び合う様子が見られる。
- 12/18～24南会津次世代育成プロジェクト 県内高校生とともに現代版組踊「息吹」の鹿児島公演に参加し、事業参画をしてゆく（参加2名・スタッフ1名）

【2月からの動き】

■ オンラインプログラム

なかなか通所がこんな子ども。自分と他者との関係性のバランスが取れないで、大勢の子どもの中にすぐに入ることが困難な子どもを対象として、毎月数回オンラインの学習プログラムを行う。事前課題を出す（答えが一つではない問題で、かつ自分なりの解法についての論理も記述させるもの）→自分の考えでといてゆく+解法のロジックも合わせで説明→他者の論理からの気づきを伝える→そこから全てに共通する論理を導き出せるのかを話し合う →メタ認知力を高めてゆく

【次回への取り組みと課題】

- 自ら問いをつくる機会をどんどん増やしてゆく。→答えが一つではないので、答えも多様にどんどん増えてゆく。→共通の法則を探ってみる
- 場のコンセプトを含め空間をデザイン。「思い」を「かたち」に。参加者同士の学びの空間をデザインする事から、多様な発想の行き交う関係性をつくる
- オンラインプログラム＝オンライン学習をつうじた、安心できる関係づくり。認知の変化を創り出してゆく。



【子どもの様子と変化】

子どもの意見、行動	スタッフの対応	活動内容 (実施日時)	特徴的な出来事、子どもの反応	こどもの変化
-----------	---------	----------------	----------------	--------

<p>先週のプログラムを振り返り、改善案を出す。</p>	<p>こどもの興味関心があることを聞き取り、理解する。また意見を引き出せるよう、こどもと一緒に問いを作る。プレストを行い意見の出しやすいよう工夫する。</p>	<p>こどもミーティング (火曜日12:00~13:00)</p>	<p>お互いに聞きたいことなど、問いを立て、答え合う様子が見られた。また自由に意見のやり取りが行われていた。</p>	<p>こどもたち同士、お互いに肯定する雰囲気、お互いに多くの発言があった。また、もっとこうした方がいいとプログラムを充実させようという意見を出し、参画意識の高まりもある。</p>
<p>言葉の穴埋め問題、数的クイズ、近代史など関心のあるものをテーマとして、お互いに問題を出し合う。</p>	<p>一緒に調べ、集中力の持続を支える。また調べたことを発表してもらう。</p>	<p>学習の時間 (午前中)</p>	<p>問題を出すために調べたり、教え合ったりと学びに対して意欲的であった。</p>	<p>わからないことがあったら、すぐに調べることが多い。また興味を持ったものに対しては、より掘り下げている。</p>
<p>VRを体験 youtubeのVR映像をGoogleで鑑賞。海の中や空を飛んでいる映像などを楽しむ。</p>	<p>興味があるものを一緒に掘り下げ、すぐに動くことも大事にする。</p>	<p>遊び、趣味の時間 (毎日13:00~16:00) 学童保育の児童との交流 (火曜~金曜16時頃~)</p>	<p>初めての体験に興味を示し、すぐに反応する。</p>	<p>面白かったものを紹介し、共感し合う様子が見られた。</p>
<p>食べたいものやテーマを決めて毎週メニューを決める。 チーズフォンデュ、サンドイッチ、チーズケーキ、餅、バンバンジーサラダうどん、中華スープ、そばなど</p>	<p>買い出し~調理まで、基本的に指示は出さず、こどもたちに任せる。</p>	<p>飯の会 (木曜日11:00~13:00)</p>	<p>こどもたち自身がレシピ・調理法を調べて、実践する。 話し合って役割を決めるなど、お互いに協力し合いながら作る。</p>	<p>振り返りでは、料理ができるようになったとの声が挙がった。またもっと手の込んだものを作りたいという意見が出る。</p>
<p>これまでは、バスケ、バドミントンが中心だったが、新しく卓球とフリスビーを取り入れる。</p>	<p>こどもとともにプレイしつつ、こどもたちの意見の吸い上げを行なっている。</p>	<p>体育の時間 (木曜日14:00~15:30)</p>	<p>実施時の参加者数やコンディションを鑑みて、ゲームのルールを決めるなど、提案する様子が見られた。特にみんなで楽しめることを意識している。</p>	<p>スポーツへの取り組みを通し、こどもたち同士のコミュニケーションが増え、良好な関係を構築している。</p>

<p>上達したいとの意見があり、練習時間を取り入れる。 実施前にMTを行い練習メニューや当日の流れを決める。</p>	<p>こどもとともにプレイをしている。また、振り返りを一緒に行うプログラムの充実を図る。</p>	<p>フットサル部 (第一、第三金曜日 13:00～15:00)</p>	<p>経験者が未経験者に基礎を教えるケースが見られる。 上手くできたときは褒めるなど、まわりへの声掛けが多い。</p>	<p>スポーツへの取り組みを通し、こどもたち同士のコミュニケーションが増え、良好な関係を構築している。</p>
<p>野球をやりたいニーズがあり実施。 人数が少ないことも鑑みて野球盤ルールで行うなど活動の仕方を話し合いながらすすめている。</p>	<p>こどもとともにプレイをしている。また、よりこどもに合った方法で実施していくために、こどもとの意見交流を行なっている段階。</p>	<p>野球部 (第二、第四金曜日 13:00～15:00)</p>	<p>フットサルのプログラム同様実施前にMTを行い練習メニューやルールを決める。</p>	<p>スポーツへの取り組みを通し、こどもたち同士のコミュニケーションが増え、良好な関係を構築している。</p>
<p>それぞれに作りたいものを創作し発表する。</p>	<p>イベントに合わせて作るものを提案する。こどもごとに作りたいものと制作期間、目標を決めて進行していく。</p>	<p>美術部・技術部 (第五金曜日、他)</p>	<p>●折り紙でクリスマスツリーの飾りつけをする。 ●十日市の販売用のポップをPCでデザインする。</p>	<p>自分で目標を決め、取り組み方を思案することで、自身の興味に向き合う。成果物ができることで、達成感や自信が得られる。</p>
<p>(保護者の悩み事) ・漠然な不安がある。 ・親失格なんじゃないか ・既存の環境以外の場とは？</p>	<p>OBOG, 教育関係者など、ゲストを呼び不登校に対する学びを深める場を作る。</p>	<p>親の会 (1/25 (土) 10:30～12:30)</p>	<p>ゲストと参加された保護者として対話をする。不登校の経験値をシェアし合うことで、不登校に対する学びを深める。</p>	<p>(保護者の変化) いただいた声 ・スッキリした ・こどもが安心できる環境があるのが一番 ・私は、こどもにSOSに気づけているのか、など</p>

【学校連携と対応】

●オンラインプログラムの出席について

各小中学校へ検討を要請している段階。前向きに検討するという反応がほとんどであり、1校は出席を認めるとの回答を得ました。

●会津若松市教育委員会 職員2名来訪

フリースクールの様子を見学し、子どもたちの学びについて協議。寺子屋方丈舎にて学びが作られていることについて理解を得ました。

また、教育機会確保法、10月25日の文科省の通達「不登校児童生徒への支援の在り方について」を受けて、学校出席日数についても要検討中。

●利用生徒3名の進路相談について

フリースクール在籍のまま提携している鹿島学園通信制への進学希望もあり、在籍校と連携

●1月、会津若松市内の中学校、高校10校へ訪問し、通信制の説明、不登校児童の対応について協議。

今は、高校中退者はほとんどいなく、中退ではなく通信制高校への転校という流れが多い。

学校で対応できないところをフリースクールでフォローする関係性ができるといいとの先生からの意見もあった。

【フリースクール・通信制高校 説明会&相談会】